

# ハマベキクイゾウムシ (ゾウムシ科; キクイゾウムシ亜科) の分布とその生息環境について

亀澤 洋

〒 350-0825 川越市月吉町 32-17

Notes on the distribution and a habitat of *Dryotribus mimeticus* Horn (Curculionidae; Cossoninae),  
with new records from northern Hokkaidô, Mikurajima Is. (Izu Isls.) and inland area of Japan

Hiromu KAMEZAWA

## はじめに

ハマベキクイゾウムシ *Dryotribus mimeticus* Horn, 1873 はアメリカのフロリダ半島沖のキーウエスト島から得られた標本をもとに記載されたゾウムシ科の小甲虫である。和名に「ハマベ」を冠するように、沿岸部で発見されることの多いキクイゾウムシであり、後述するように、その分布は驚嘆に値するほど広域に及ぶ。

また、本種は朽ち木にすむため生態的に農業害虫にはなり得ないにもかかわらず、意外にも有名種といえる。その理由は、国際自然保護連合 (IUCN) によってまとめられた 1996 年の絶滅種リストに本種の掲載があり、情報更新が必要との注記があるものの、ハワイ諸島における地域絶滅種に指定されているためである (<http://www.iucnredlist.org/>)。このような種のため、インターネット百科事典のウィキペディアにも立項があり、それをもとに 88 ページもある冊子が 2011 年に出版されている。

今回、文献記録からこれまでに判明している分布像をまとめるとともに、筆者の手元のデータをいくつか示して分布情報を追加する。さらに、あまり知られていないと思われる日本の内陸部における本種の生息環境についても言及する。

## 国内分布

1989年に刊行された日本産昆虫総目録によれば、国内の分布は本州、伊豆諸島(大島、式根島、三宅島、八丈島、青ヶ島)、四国、九州、トカラ中之島、奄美大島、石垣島、北大東島が知られ、国外では汎熱帯域に広く分布するという。この分布は, Chûjô and Voss (1960), Konishi (1962) および Morimoto and Miyakawa (1985) によって示されたデータをまとめたものである。その後国内から記録されていないか調べた結果、奥尻島(楠井, 1990)、山形県飛島(小島, 2012)、伊豆諸島新島(平野ら, 1993)、

日本の最東端の南鳥島(森本, 2001)からの生息情報を見いだすことができた。

なお、小笠原諸島の昆虫目録に本種が入っている場合も見受けられた(日本林業技術協会, 2003)。一方で、森本(1985)は小笠原諸島には本種の近似種が分布することを指摘している。森本博士からの私信によると、小笠原諸島には本種とその近似種 *Dryotribus* sp. の 2 種が分布し、複数の島から得られた本種標本が博士の手元にあるそうである。

## 国外分布

国外の分布について、もう少し詳しく情報を拾ってみる。

フロリダ半島南部の沿岸部は島嶼も含め各所(Blatchley and Leng, 1916; Blatchley, 1922)、メキシコのユカタン半島(Fosberg, 1962)、西インド諸島

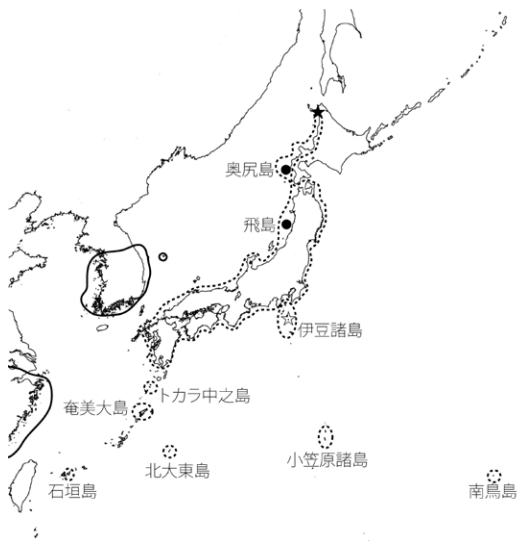


図1. 国内と周辺地域におけるハマベキクイゾウムシの分布。破線が国内分布で実線が周辺国における分布。★は北海道稚内、☆は伊豆諸島御蔵島。

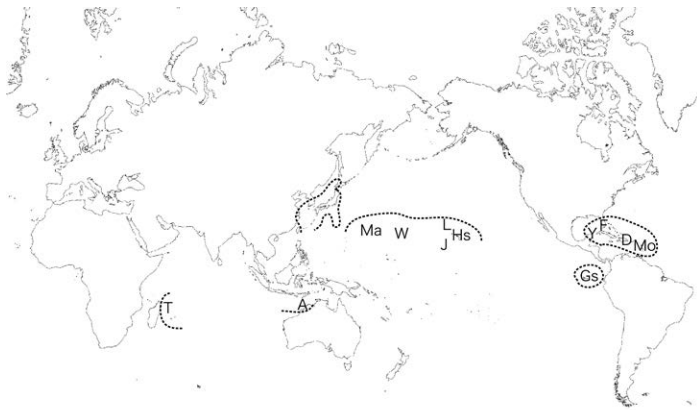


図2. ハマベキクゾウムシの世界的な分布概念図。記号T, トロメリン島（フランス領）; A, アデル島（オーストラリア）; Ma, 南鳥島（別名マーカス島）; W, ウェーク島; J, ジョンストン環礁; L, レイサン島（北西ハワイ諸島）; Hs, ハワイ諸島; Gs, ガラパゴス諸島; Y, ユカタン半島; F, フロリダ半島; D, ドミニカ; Mo, モントセラト（イギリス領）。

のドミニカやバハマのアンドロス島（ハーバート大学の「カリブの昆虫と植物のデータベース」による）、小アンティル諸島のモントセラト（Ivie *et al.*, 2008）、カリブ海に浮かぶグレナディーン諸島のマスティック島（Champion, 1909）、北西ハワイ諸島のフレンチ・フリゲート礁（Beardsley, 1966）およびレイサン島（Perkins, 1926）、ハワイ諸島のライナイ島（Perkins, 1900）やオアフ島（Anonymous, 1917）、北太平洋のジョンストン環礁やウェーク島（Perkins, 1926）、マダガスカルとモーリシャス島の間に位置するトロメリン島、オーストラリア北西部やアデル島（Staub, 1970）、Peck (2006) によれば、ガラパゴス諸島からも複数の島（イサベラ島、フェルナンディナ島、サンタ・クルス島、サン・クリストバル島、エスパニョラ島、マルチェナ島）から記録がある。

旧北区のカタログでは中国、朝鮮半島も分布域に含まれる（Hlaváč and Maughan, 2013）。朝鮮半島に関しては、Hong *et al.* (2012) がまとめた目録によると、中部、南部、鬱陵島がその分布範囲である。中国からの記録については、Staub (1970) が浙江省（Chekiang）に分布すると言及している。

本種が孤立した海洋島や環礁にさえ生息しているのは、海流によって分布を広げた結果と考えられているほか（Perkins, 1926）、人為的な移入も疑われている。ハワイにおける本種の分布は導入されたとする説がある一方で（Champion, 1909）、Zimmermann (1940) は、本種を含む *Dryotribus* 属が太平洋諸島に複数みられ新大陸には本種しか分布しないことから、逆に本種のアメ리카における分布が人為的なものではないかと推定している。い

ずれにしても、小島嶼の苛烈な環境下などで見つまっていることから、本種の好む環境が透けてみえてくる。

### 海浜および島嶼部からの新記録

自然的な分散においては、本種は後翅が退化しているため、流木にともなって移動しているものと想像される。実際に日本においても沿岸部からの記録が多い。のみならず、沿岸性種と見なされていることから、現代日本における海浜環境の自然度の劣化によって絶滅の危機にさらされていると考えられ、宮城県、神奈川県では県版のレッドデータブックに掲載され

ている。

以下に、筆者の手元の標本から、興味あるデータを示す。いずれも、海流による分散の結果と見なすことが可能な分布確認例である。

2 exs., 北海道天塩郡豊富町稚咲内, 12. VII. 2008; 1 ex., 東京都御蔵島村里, 13. V. 2013; 1 ex., 千葉県館山市坂田, 2. V. 2013, すべて筆者採集, 保管。

北海道の本土部からは初の記録となるとともに、本種の分布域の最北の記録になるものと思われる。伊豆諸島からは広く知られていたが、御蔵島からはこれまで記録がなかった。

稚咲内では、さほど遠くない場所に風力発電の巨大なプロペラがまわっていた以外は自然度の高い砂浜海岸の、内陸部寄りの段丘に打ち上げられて半分砂に埋まった流木から、御蔵島では集落内の耕作地周辺のススキの根際地表のシフティングによって採集された。千葉県からのデータは砂浜に打ち上げられた海藻下より生きた個体を得たので、本種の海流による分散を示唆する採集例として特に取り上げた。

### 内陸部からの確認例

以上のように島嶼や海岸から見つかることの多い本種ではあるが、その発見例は沿岸部にとどまらない。以下に内陸部からの採集例を示すが、確認範囲も広いため特殊な偶産とは考えにくい。

4 exs., 埼玉県春日部市東中野, 17. XII. 2005; 2 exs., 埼玉県川越市池辺, 23. I. 2014; 3 exs., 埼玉県志木市下宗岡, 1. II. 2014, すべて筆者採集, 保管。

春日部市では果樹園の脇に置かれた材木の下から、川越市では入間川にかかる関越自動車道の橋



図3. 内陸部におけるハマベキクイズウムシ確認環境。A, 埼玉県川越市; B, 同, 志木市。いずれも河川にかかった橋の袂の下(河川敷の外側)の雨のかからない乾燥地であった。

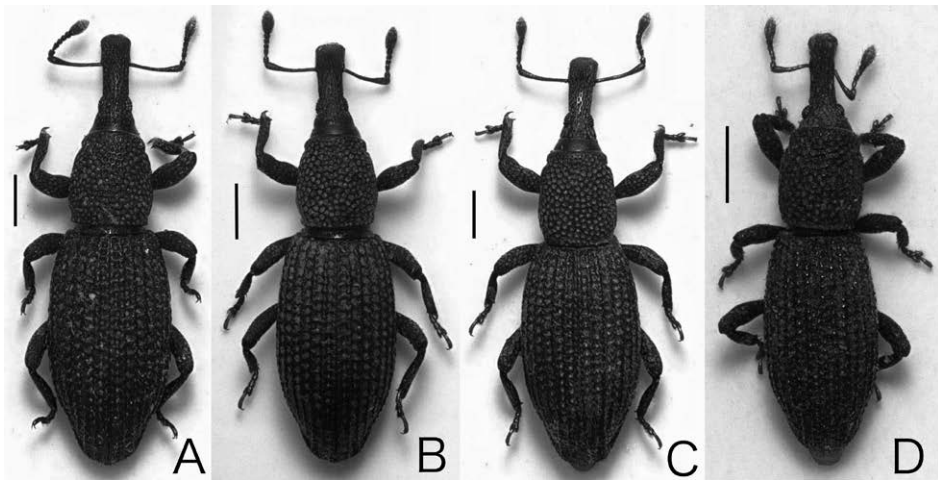


図4. 各地のハマベキクイズウムシとその近縁種。A, 北海道稚内産; B, 埼玉県志木市産; C, 伊豆諸島御蔵島産; D, 小笠原諸島の近縁種 *Dryotribus* sp., 母島乳房山, 1. I. 2008 筆者採集, スケールはすべて0.5 mm。

下の堤内(河川敷の外側)に落ちた石裏面から、志木市では荒川にかかる橋脚下の板や石下より採集された。海岸部のない埼玉県からは、これまで公式に報告されていないと思われる。

上記の確認例は、すべて海からは25～35 kmほど離れた内陸部からの記録である。本種は、意図的なものではないとしても、人為的な移動によって生息域を拡大しているものと考えられる。インターネット上で検索してみても、本種と考えられる標本または画像は、都市部を中心に内陸部の各地で得られている。

また幸形氏からの私信によると、大阪府では木造建物の床下で本種が見つかるのはまれではなく、京都府でも東山区の山寺や綾部市の民家床下の乾燥環境から確認されているという。氏のご好意によりデータを以下に示す。

1 ex., 京都府綾部市本町, 22. X. 1988, 山下雅司採

集; 1 ex., 京都市東山区林下町(建物脇に放置された木材より採集), 5. VII. 2006; 1 ex., 大阪府東大阪市小阪本町(家屋で採集, 内陸部というほどでもないが海辺でもない), 3. VI. 1995; 以上, 幸形聡採集, 保管。

興味深いのは、本種が海辺以外から見つかる場合、人為的な環境ないしは自然度の低い環境下での採集例が少なからず見られることである。むしろ、自然度の高い森林では確認されていないのではないかとと思われる。

沿岸域の流木や朽ち木の下面などで生活する本種は、直接高温にさらされることはないと思なされるものの、灼熱と乾燥を繰り返す海辺の塩性環境下でも生息可能である。このような特殊環境が本来の生息場所であるがゆえに、人為的な環境のもとでの乾燥にもよく耐え、内陸部の都市や農耕地など、人間活動の影響の大きな地域にも進出し

ていると考えられる。

## 謝辞

末筆ながら、問い合わせに応じてくださった新井浩二、堀繁久の両氏、貴重なデータを提供してくださった幸形聡氏、ならびに草稿を読んでくださりご指摘をくださった小島弘昭、森本桂、野村周平の3博士に心よりお礼申し上げる。

## 引用文献

- Anonymous, 1917. February 3rd, 1916. Proceedings, Hawaiian Entomological Society, 3(4): 266–268.
- Beardsley, J. W., 1966. Insects and other terrestrial Arthropods from the Leeward Hawaiian Islands. Proceedings, Hawaiian Entomological Society, 19(2): 157–185.
- Blatchley, W. S., 1922. Notes on the Rhynchophora of eastern north America, with characterizations of new genera and descriptions of new species. Journal of the New York Entomological Society, 30(3): 113–127.
- Blatchley, W. S. and C. W. Leng, 1916. Rhynchophora or weevils of north eastern America. 682pp., Indianapolis, The Nature Publishing Company.
- Caribbean Insect & Plant Database (<http://insects.oeb.harvard.edu/caribbean/>). カリブの昆虫と植物のデータベース, ハーバート大学. 2014年3月閲覧
- Champion, G. C., 1909. Rhynchophora. Biologia Centrali-Americana IV. Pt. 7, 1–177pp., Smithsonian Institution.
- Chūjō, M. and E. Voss, 1960. Neue Curculioniden-Subfamilie, -Gattungen und -Arten von Japan (Coleoptera, Curculionidae). Memoirs of the Faculty of Liberal Arts & Education, Kagawa University (Part II), (94): 1–17.
- Fosberg, F.R., 1962. A brief survey of the cays of Arrecife Alacran, a Mexican atoll. The Pacific science board, National Academy of Sciences (National Research Council), Atoll research bulletin, 93: 1–25.
- Konishi, M., 1962. Taxonomic studies on the Cossoninae of Japan (Coleoptera : Curculionidae), Part 1. Insecta Matsumurana, 25(1): 1–17.
- 平野幸彦・上田康之・渡 弘・吉田篤人, 1993. 伊豆新島産甲虫類採集報告. 神奈川虫報, (104): 1–12.
- Hlaváč, P. and N. Maughan, 2013. Cossoninae. 217–229pp., Löbl, I.

- and A. Smetana eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera Vol. 8, Brill
- Hong, K. -J. Park, S. and K. Han, 2012. Arthropoda: Insecta: Coleoptera: Curculionidae: Curculioninae, Cossininae, Mesoptiliinae-Weevils II. Insect Fauna of Korea, 12(7): 1–179.
- Horn, G. H., 1873. Contribution to a knowledge of the Curculionidae of the United States. Proceedings of the American Philosophical Society, 13(91): 407–469.
- 小島弘昭, 2012. 山形県飛鳥のゾウムシ上科甲虫相. さやばねニューシリーズ, (6): 31–34.
- 楠井善久, 1990. 奥尻島の昆虫 (III) - オトシブミ科・ゾウムシ科・オサゾウムシ科 -. Jezoensis, 17: 48–53.
- 森本 桂, 1985. キクイゾウムシ類概説 : III. キクイゾウムシ亜科 (2). 家屋害虫, (23,24), 19–28.
- 森本 桂, 2001. 南鳥島の昆虫採集記 . 北九州の昆虫, 48(2): 71–75, 2 pls.
- Morimoto, K. and S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan (Coleoptera). Mushi, 50(3): 19–85.
- 日本林業技術協会, 2003. 添付資料 : 2. 生物種リスト (小笠原固有種・昆虫リスト). 46–101pp, 平成 14 年度小笠原地域自然再生推進調査報告書 .
- Peck, S. B., 2006. Superfamily Curculionoidea. 253–280pp., The Beetles of the Galápagos Islands, Ecuador: Evolution, Ecology, and Diversity (Insecta: Coleoptera). NRC Research Press.
- Perkins, R. C. L., 1900. Coleoptera Rhynchophora, Proterhinidae, Heteromera and Cioidae. Fauna Hawaiiensis Vol. II, Part III, Coleoptera I, 117–270pp.
- Perkins, R. C. L., 1926. Coleoptera, weevils. Insects of Hawaii, Johnston Island and Wake Island. Bernice P. Bishop Museum Bulletin, 31: 53–66.
- Ivie, M. A., K. A. Marske, I. A. Foley and L. L. Ivie, 2008. Appendix 2. Species lists of the beetles, non-beetles hexapods and non-hexapod invertebrates of Montserrat. 237–311pp., A Biodiversity Assessment of the Centre Hills, Montserrat, Durrell Conservation Monograph No.1, Durrell Wildlife Conservation Trust.
- Staub, F., 1970. Geography and ecology of Tromelin Island. Atoll Research Bulletin, (136): 197–209.
- Zimmermann, E. C., 1940. Synopsis of the genera of Hawaiian Cossoninae with notes on their origin and distribution (Coleoptera, Curculionidae). Occasional papers of Bernice P. Bishop Museum, 15(25): 271–293.

(2014年4月9日受領, 2014年6月3日受理)

## 【短報】オビモンコミズギワゴミムシの広島県からの記録

オビモンコミズギワゴミムシ *Tachyura ceylanica* (Nietner, 1858) は, Ceylon を基準産地として記載された, 体長 1.8 ~ 2.0 mm 程度の小型のコミズギワゴミムシである. 我が国からは, Tanaka(1959) により神奈川県平塚市で採集された標本を基に報告されたのが最初である. 中根(1978) は, 海外の分布域としてセイロン(現・スリランカ), インド, ビルマ(ミャンマー), マレイ(マレーシア), フィリピン, セレベス(スラウェシ), 南支(中国南部) を挙げている. 国内の記録は少なく, 前述の神奈川県平塚市の他に, 石垣島(Habu, 1975), 東京都(和泉, 1990), 神奈川県内数ヶ所(平野, 2004) の

記録があるにすぎない.

昨年, 筆者は, 広島県で本種を採集しているのここに報告する.

3exs. (図1), 広島県竹原市吉名, 28. IX. 2013.

瀬戸内海に面する塩湿地での灯火採集で得られたものである. その後, 数回にわたり地表の探索, 灯火採集を試みたが追加することは出来なかった. 本種の国内での報告例が少ないのは, 同定自体が難しいことのほか, 埋め立て, 護岸工事, 水質悪化等によってその生息環境の減少によるものと思われる. これまでの採集地から, 本種が河口や塩湿地などに依存していることが示唆されるが, 和泉(1990)の記録は, 森田誠司氏によると, 東京都大田区内の落葉下から採集された模様で, 海浜